

日本古来の発酵技術が土壌と植物を元気にする！

ベストキン

成分：乳酸菌・酵母菌・納豆菌
ミネラル

- 特殊肥料登録済
- 有機JAS対応

こんな方にお勧め！

- なるべく農薬に頼りたくない方
- 減農薬志向の方
- 食味・品質を上げたい方
- 病原菌でお困りの方

＝ 注意事項 ＝

農薬との併用は可能ですが、一部殺菌剤（浸透性の強い）との併用で菌の活性が落ちる場合があります。

対象作物例

レタス、キャベツ、インゲン、キウリ、トマト、ナス、ピーマン、キュウリ、オクラ、タマネギ、カボチャ、ニラ、ニガウリ、ネギ、ハウレンソウ、イチゴ、メロン、バナナ、ミカン、カボチャ、サトイモ、ジャガイモ

こんな目的にお勧め！

- 植物の根張り向上に
- 曇天時の光合成活性に
- 病原菌の抑制に
- 収量の増加・成り疲れ予防に
- 硝酸態窒素の軽減に
- 樹勢の維持・玉伸び促進・着色促進に

乳酸菌

+

酵母菌

+

納豆菌

2L
液体

特長

- 1、食用菌由来の発酵生産物質**
発酵段階に食用菌が生産した有機酸、アミノ酸・核酸・ビタミン・酵素、ホルモン等を含む
- 2、食用菌で抗菌ブロック**
発酵食品が腐り難いように、食用菌が有害菌・細菌等から植物を守ります。
- 3、吸肥力を上げる菌体外酵素**
食用菌が生産した菌体外酵素は、有機物分解を促進し、肥料効率を上げます

使用方法

★菌体が沈殿しますので、よく振ってからご使用下さい。

- 育苗期 2～3回
1000倍液を7日間隔で葉面散布
- 畑の土作り(10a)
1回目:播種・定植の1週間前までに500倍液を250L土壤灌水
2回目:定植後の本葉2.5～3枚時に500倍液を250L土壤灌水
- 定植時のどぶ浸け
500倍液に根部をどぶ浸け又は定植前の苗に500倍液を灌水
- 定植後の管理(10a)
【葉面散布】
時期:定植～収穫まで10日間隔
散布量:1000倍液を200L散布
【土壤灌水】
時期:定植～収穫まで1～2回/月
灌水量:原液500mlを流し込み

日新農工産業株式会社

〒379-2147 群馬県前橋市亀里町365-6
TEL:027(265)1115 FAX:027(265)1118

「ベストキン」の使用方法 (反当り)

葉菜類 + 花卉類 (キャベツ・白菜・レタス・ホウレンソウ・チンゲンサイ・ニラ・花卉)

圃場の準備	「ベストキン」原液1 L を畑に250～500倍に希釈して土壌散布
育苗期	「ベストキン」の1000倍液を7～10日間で葉上から灌水
どぶ浸け	「ベストキン」の500倍液にプラグ苗を浸漬、又は定植前にジョウロ等で灌水
定植後の管理	「ベストキン」の1000倍液を10～15日間隔で150～200L 葉面散布

果菜類 (トマト・キュウリ・ピーマン・スイカ・メロン・イチゴ・オクラ・ゴーヤ)

圃場の準備	「ベストキン」原液1 L を畑に250～500倍に希釈して土壌散布
育苗期	「ベストキン」の1000倍液を7～10日間隔で葉上から灌水
どぶ浸け	「ベストキン」の500倍液に苗を浸漬、又は定植前にジョウロ等で灌水
定植後の管理	葉面散布 「ベストキン」の1000倍液を7～10日間隔で200～400L 土壌灌水 「ベストキン」原液500ml を15日間隔で月に2回灌水

根菜類① (大根・人参・サツマイモ・ゴボウ)

圃場の準備	「ベストキン」原液1 L を畑に120～150倍に希釈して土壌散布
定植後の管理	「ベストキン」の1000倍液を15日間隔で100～150L 葉面散布

根菜類② (ジャガイモ・里芋・ニンニク・ラッキョ)

圃場の準備	「ベストキン」原液1 L を畑に120～150倍に希釈して土壌散布
種芋処理	「ベストキン」の250倍液に種芋を浸漬
定植後の管理	「ベストキン」の1000倍液を15日間隔で100～150L 葉面散布

根菜類③ (ネギ・玉ネギ)

圃場の準備	「ベストキン」原液1 L を畑に120～150倍に希釈して土壌散布
育苗期	「ベストキン」の1000倍液を7～10日間隔で葉上から灌水
どぶ浸け	「ベストキン」の500倍液に苗を浸漬、又は定植前にジョウロ等で灌水
定植後の管理	「ベストキン」の1000倍液を15日間隔で100～150L 葉面散布

豆類 (枝豆・大豆)

種子処理	「ベストキン」の500倍液に10秒間浸漬後に自然乾燥
定植後の管理	「ベストキン」の1000倍液を収穫までに2回、100～150L 葉面散布 1回目 <開花直前又は開花初期> 2回目 <1回目散布後から10～14日以内>

果樹類 (柑橘・リンゴ・梨・葡萄・桃・マンゴー)

開花直前(2000倍)～開花直後(1000倍)を中心に、その後は1000倍液を収穫まで月に1回 葉面散布
--

- ※ 病原菌発生時の使用方法 → 通常より濃い濃度250倍(通常 500～1000倍)で葉面散布
- ※ 発根促進剤としての使用方法 → 250倍希釈液に挿し木や苗を浸漬して定植すると、通常の発根促進剤より早く活着し、その後の生育が揃います。
- ※ 「ベストキン」は農薬と併用できます。